

24年度派遣生2人決定

カナダ、タイへ来年出発

高校生 長期留学事業

県内高校生の長期留学を支援する学生団体「県高校留学推進委員会」（小野澤良代表）は、2024年度派遣生に、聖霊高2年の伊東莉々子さん（16）と、横手清陵学院高1年の遠藤正純さん（16）を選んだ。2人は来年の出発に向け、今後さまざまなワークショップに取り組む。

国際教養大生をつくる推進「担なく長期留学できる支援事業」は、秋田の高校生が費用負担を展覧している。県民から



寄付を募り、学費や渡航費といった費用を賄っている。今夏に1期生として高校生3人を送り出した。

2期生の募集には11人が手を挙げ、英語の試験と面接を経て2人を選んだ。行き先はそれぞれ希望したカナダとタイ。カナダの移民政策に興味があるという伊東さんは「文化の異なる人たちがどのように協力し合い暮らしているのかを、自分の目で確かめたい。現地で開催している活動にも参加したい」と意気込む。

遠藤さんは、発展途上国の教育について詳しく知りたいと応募。「日本と同じ教育制度『6・3・3制』を採用しているタイで実際に学び、国際間の教育格差を生む要因を探りたい」と語った。

3日には、秋田市のにきわい交流館でキックオフミーティングを開催。高校生が出資者や推進委のメンバーとともに、留学先の国の言語

2024年度の派遣生に選ばれた伊東さん（前列左から2人目）と遠藤さん（同3人目）

派遣国の文化などについて調べ、発表したキックオフミーティング



や文化について理解を深めた。

2人は来年5月の壮行会までに、自己の内面や秋田の課題などを見つめる推進委主催のワークショップを受講する。推進委の小野澤代表は、留学先では「幅広い視点から派遣国と日本ののびやかな違いを吸収してほしい。その上で、ふるさと秋田の魅力や課題を見つけてもらいたい」と話した。

2期生への寄付は、来年7月まで受け付けている。申し込み方法などの詳細は、推進委のフェイスブックや公益社団法人日本国際生活体験協会（BIL、東京）のホームページで確認できる。

（丹井ひかり）